

20150508 学術俯瞰講義

東アジア海域の文化交流と寧波

担当：小島毅（文学部思想文化学科）

日本史上の中世にあたる時期における海域交流が、日本のいわゆる伝統文化を生みだし育んだことを、大学入試センター試験の常連、寧波という都市の役割を中心に紹介する。

寧波の乱（1523）

- 日本は15世紀はじめから明に朝貢使節団を派遣していた
- 応仁の乱以降、室町殿の権威・権力が衰える
- 細川氏と大内氏がそれぞれ独自に遣明船を派遣
- どちらがホンモノかをめぐって騒乱となった

シリーズ「東アジア海域に漕ぎだす」（東京大学出版会、2013~2014年）

ISBN=9784130251419、9784130251426、9784130251433、9784130251440、9784130251457、9784130251464

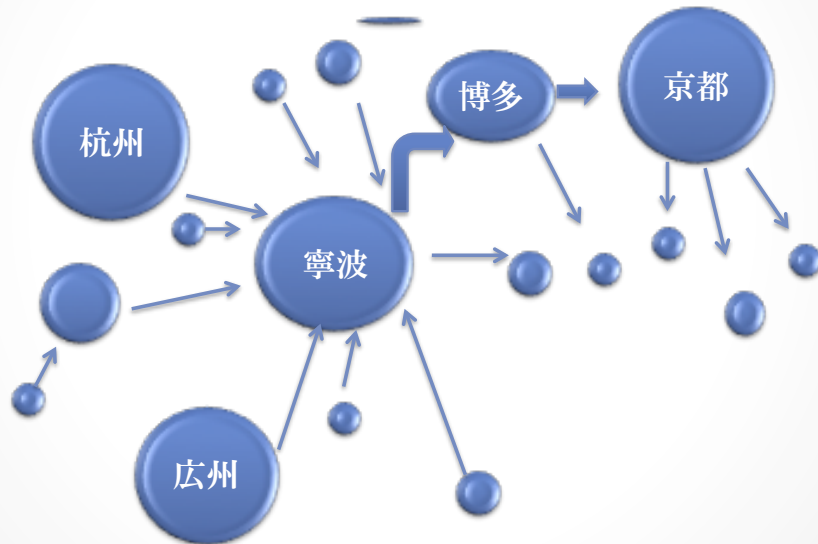
2 文化都市 寧波

第 I 部 書物がつくる文化 一 天一閣蔵書楼とは何か 二 寧波の郷土史料『四明叢書』 三 語り継がれる記憶と寧波の地方志 四 思想家の言葉はどのようにして書籍に定着したのか——王陽明 を一例として コラム 「中国のルソー」を育んだもの 第 II 部 知識人たちの記憶と記録 一 王朝をこえて——宋元交代期の碑刻の書き手たち 二 豊氏一族と重層する記憶 三 思想の記録／記録の思想——寧波の名族・万氏について 四 寧波という磁場と文学者たち コラム 江戸文化と朱舜水 第 III 部 場と物が織りなす記憶と記録 一 石に刻まれた処方箋 二 墓地をめぐる記憶と風水文化 三 文化を支える経済のはなし コラム 東銭湖墓群と史氏 コラム 寧波の英雄・張煌言

3 くらしがつなぐ寧波と日本

第 I 部 「水の世界」寧波の環境と社会 一 「水郷」寧波の生活 二 「港町」寧波の人々 第 II 部 歩いて実感する浙江の生活文化 一 お茶のふるさとを求めて 二 浙江東部の伝統演劇 三 浙江地域の「船上生活者」 第 III 部 いざ、寧波から海を越えて 一 海を渡る石 二 海を越える神々 三 近代寧波の商人と日中貿易

ハブとしての寧波



(小島作成=この授業のために新規に)

- 9世紀以降、中国における対日通航は明州が指定される
- 明州 → 慶元府 → 寧波
- 宋風文化は寧波を經由して伝来
- 禅仏教・禅宗様建築・喫茶文化・水墨画・三体詩
- 朱子学も禅寺のなかで学習される形態で伝わる
- 北山文化や東山文化も寧波なくして存在しなかった

古代との違い

- 遣唐使時代は唐を模範とする国づくりをめざしていた
- 律令の継受、鎮護国家仏教
- 宋風文化は生活文化としての面が強い
- 寧波がある浙江地方と西日本との風土的類似
- 佐々木高明『照葉樹林文化とは何か』（中央公論社、2007年、ISBN=9784121019219）
- 日本の伝統文化として定着した

宋学（朱子学）（小島毅『朱子学と陽明学』ちくま学芸文庫、2013年、ISBN=9784480095695）

- 宋（960~1276）において誕生した儒教の1流派
- 経書を新たな視点から読み解こうとする
- 「理」と「気」によって自然現象・人間社会を説明
- 人間社会の歴史を当為による価値判断で語る
- 大義名分・尊王攘夷
- 江戸時代の士道の基礎となる => 武士道

招宝七郎神（二階堂善弘氏による研究）

- 招宝七郎大権は、龍神＝海神として、また伽藍神として宋から明にかけての中国で広く祀られる神であった。さらに日本では平戸にても祀られた。ところが、その後、航海守護神は福建系の媽祖神の力が強くなり、中国では伽藍神であることも忘れられ、信仰が衰退していったものと考えられる。ついには阿育王寺でも、その名すら不明確になってしまっている。
- ただ、日本において宋代の文化を伝える寺院でその像を祀ることから、信仰が僅かながら保持されたものである。民間信仰についてはその変容が激しく、恐らくは宋代の姿は全く今と違ったものであったろう。さらに東アジア一帯で海を飛び越えて信仰される海神は媽祖以外にも多様な神々があったはずである。その当時の宗教文化の一端を今に伝えるものとして、招宝七郎神は非常に貴重な存在であると考えられる。（<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~nikaido/zhaobaoqilang.html>）

道元（1200~1253）

- 渡宋（1223~1227年）
- 『典座教訓』（講談社学術文庫 ISBN=4061589806 に中村璋八氏らによる現代語訳あり）の逸話
- 留学中のほとんどの期間を寧波の天童寺で過ごす

海域交流と日本文化

- 日本は四方を海に囲まれているため、外国との通交には海を渡らざるをえなかった。
- 大陸での上陸地点は、9世紀以降は中国政府によって寧波が指定されていた
- 日本から渡航する者や日本へ渡航する者はみな寧波を通過していた
- 日本人渡航者の「中国経験」は厳密には「浙江経験」「寧波経験」であった
- 拙稿「異境の表象」（アジア遊学 70号特集『波騒ぐ東アジア』、2004年、ISBN=458510321X）